

# 21年度キリスト教学校教育 振興助成による諸報告

## 全国居留地研究会

### 新潟大会(オンライン)

#### 「居留地のリベラルアーツ教育」(パンフレット作成)

2021年9月17日に開設の地・函館に蔭かれ感染状況の悪化で全面的にオンラインに切り替え、全国居留地研究会新潟大会を開催し、共催の敬和学園大学から配信しました。「AI時代のリベラルアーツ教育」を見据えて、日本のリベラルアーツ教育の始まりにさかのぼって「居留地のリベラルアーツ教育」をシンポジウムのテーマにしました。参加者に配布した大会パンフレット作成に、同盟の教育振興助成を賜りました。心から感謝を申し上げます。簡単に報告致します。

開設の地・函館に蔭かれ、ロシア語教育の種、築地・水野雅生氏、「福沢諭吉とアメリカ長老教会宣教師カローザス夫妻」、横濱・鈴木佳秀氏、「フェリス女学院は2020年に創立150周年を迎えました」、川口・西口忠氏、「大阪川口居留地から始まる教育―「高等英学校」の教育と卒業生」、神戸・濱下昌宏氏、「神戸女学院のリベラルアーツ教育」、長崎・姫野順一氏、「長崎居留地のミッションスクールにおけるリベラルアーツ教育」、新潟・鈴木孝二氏、「北越学園・新潟のリベラルアーツ教育」。

私の視点で簡潔に要約すると、長崎ではいくつかのミッションスクールがほぼ同時に開校され、その後統合した学校と現在まで存続する学校の系譜と概要が示されました。横浜でもいくつかのミッションスクールがほぼ同時に開校されましたが、フェリスの居留地時代の歴史に絞ってその概略が述べられました。函館からは他の居留地で行

について、新潟からは短命であった北越学園の教育とその卒業生について報告されました。

われた英語教育とは異なるロシア語教育が行われていたことが紹介されました。築地からは福沢諭吉に影響を与えた宣教師カローザスもいたことが指摘されました。

神戸からは居留地に近い居留地の神戸女学院の前身から神戸女学院への展開を跡付け、その中で地元の三田藩の人々との繋がりが紹介されました。またその背景に19世紀アメリカ東海岸の女子大のリベラルアーツ教育があることが指摘されました。川口からは桃山学院の前身の「高等英学校」の教育とその卒業生

山田耕太

〈新潟居留地研究会会長、敬和学園大学学長〉

会長挨拶・開催地会長挨拶に続く、国立歴史民俗博物館研究員の青柳正俊氏による基調講演「居留地なき開港場・新潟の成立と顛末」では、開港五港で外国人が極めて少なかった新潟では、最初から居留地が建設されず、すべて雑居地で、ここでの土地取引の実態が明らかにされました。

シンポジストと演題は次の通りです。函館・倉田有佳氏「ロシア領事館